

こころ



THCU Chronicle *Heart* No.17 Winter 2014

第17号



第9回医愛祭

東が丘看護学部を
東が丘・立川看護学部
名称変更します！



音楽サークル「ダ・カーポ」による
ウィンターコンサート (25. 12. 26(木))



女子バスケットボール部「Wizards」1部昇格及びチアダンス部
「ジャスミン」の全国大会初出場を祝う祝賀会 (26. 1. 9(木))

CONTENTS

目次

- | | | | |
|---|--|----|--|
| 2 | THCU NEWS!! | 8 | tomorrow's Nurseの育成をめざして
情報交換の場であるコンタクトグループミーティ
ング
東が丘看護学部 看護学科 |
| 3 | 平成25年度東京医療保健大学を語る会 | 9 | 大学院生は『非リア』か？『リア充』か？
博士課程での学び
大学院 医療保健学研究科 |
| 4 | 平成24年度決算について | 10 | 臨床との連携、臨床教授会
台湾における産後ケア施設を訪ねて
大学院 看護学研究科 |
| 5 | 日本私立大学連盟主催 FD推進ワークショップ
(新任専任教員向け) に参加して
平成25年度夏期FD研修会報告
医療保健学部 看護学科 | 11 | 就職支援 |
| 6 | 平成25年度卒業研究発表会
医療保健学部 医療栄養学科 | 12 | Topics |
| 7 | 卒業生の声
医療保健学部 医療情報学科 | | |

東が丘看護学部を東が丘・立川看護学部 名称変更します！

東が丘看護学部は、国立病院機構東京医療センターとの連携を図り、平成22年4月、東京都目黒区東が丘の地でスタートしました。社会・時代のニーズに対応できる看護師を養成するために、平成26年4月からは、東京都立川市にある国立病院機構災害医療センターと連携し、災害看護学コースの教育の拠点を立川地域にも設置します。

災害看護学コースは、災害医療センターを主たる実習先とするとともに、平成28年度からは敷地内にキャンパスを置き、教

育環境のさらなる充実を図っていきます。

これらのことを高校生・保護者・学校関係者等及び社会一般に理解していただくため、また、学びの場が2つになるため、平成26年4月から、それぞれの地名を冠した東が丘・立川看護学部と名称変更することとしました。（在学生も対象）

それぞれのキャンパスでこれまでと同様、充実した教育環境を整えていきますので、よろしくお願い致します。

東が丘・立川看護学部の入学定員を増加します！ 100名→200名

ー 臨床看護学コースと災害看護学コースの2コース制を導入 ー

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の経験を踏まえ、災害時に医療チームの一員として機能的に支援ができる看護師の育成が求められています。そこで、本学では、平成26年度から新たに国立病院機構災害医療センター（東京都立川市）と連携し、災害に伴う防災・減災活動にも適切に対処できる看護師の育成を行うこととしました。

そのため、平成26年4月から東が丘看護学部看護学科を臨床看護学コースと災害看護学コースの2コース制とし、入学定員を現在の100名から200名に増加することとしました。

臨床看護学コースでは、従来どおり、確かな看護の実践能力

を持って発展的に未来の看護を創造できる看護師を育成し、臨床での高度医療に対応できる看護実践能力を身に付け、自分で考え、判断し、行動できる自律した看護師“tomorrow's Nurse”を目指していきます。

災害看護学コースでは、臨床看護学コースと同様に自分で考え、判断し、行動できる自律した看護師“tomorrow's Nurse”を育成するとともに、災害時の防災・減災活動の中でリーダーシップをとり、コーディネート役も担える能力も育成していきます。また大規模災害時には国際的視野に立った行動もできるスキルを育成していきます。

大学院について

- 看護学研究科においては、平成26年度から修士課程に新たに看護科学コースを設置するとともに、博士課程を新設します。また、医療保健学研究科修士課程においては、平成26年度から新たに滅菌供給管理学領域を設置します。

「東京医療保健大学を語る会」を開催

授業における新規性のある取り組み及びその成果・課題等について

10月23日(水)、教員のFD活動の一環として平成25年度「東京医療保健大学を語る会」が五反田キャンパスで開催されました。4名の教員から「授業における新規性のある取り組み及びその成果・課題等について」をテーマに発表が行われ、その後意見交換が行われました。本学ではFD活動を積極的にを行い今後も授業内容・方法の改善・充実を図ってまいります。

「医学・医療概論」での取り組み

医療保健学部看護学科 末永 由理 准教授



「医学・医療概論」は1年次生前期に開講される必修科目です。看護学科では、科目担当者の交代を機に今年度から授業方法を変えました。全8回の授業のうち、前半の4回は医療の歴史や役割等に関する講義とし、後半の4回では専門職者として医療における課題を達成していく基盤となる考え方と方法論を学ぶために、クラス全体でのロールプレイを行いました。ロールプレイの場面は「ある市民病院における看護師不足問題に関する意見交換会」とし、登場人物である看護師長、医師、地域住民、自治体職員を学生から手挙げ式で募りました。登場人物役以外の学生は事前学習に取り組み、すべての学生がいずれかの登場人物の視点を持って授業に参加できるようにしました。学生からは「資料を読んだ時にはバラバラな視点だったのがロールプレイによって一つにつながった。」「医療は現場だけで回っているわけではなく、設置主体も大いに関係していることが分かった。」といった意見が聞かれ、医療の仕組みを理解し、現状の問題を多角的に捉えることが出来たと考えます。今後も学習目標の達成に向けた授業方法の工夫に取り組んでいきたいと思ひます。

医療栄養学科の取り組み

医療保健学部医療栄養学科 北島 幸枝 講師



医療栄養学科は、全人的医療教育のもと現場に強い管理栄養士の育成を行う中で、習得した知識や技能を的確に用い、自ら考え解決する方法を身につけ、より専門性をもった実践的能力を磨くことを目指している。教員は、基礎学力対策、興味・関心を高める工夫（メディア等の利用）、配布資料の工夫、関連し合う科目間での授業内容等の情報交換、講義と実習の連続した授業展開など、国家試験対策も含め全年次を通した総合的な取り組みを行っている。また、本年度は、医療人としてのマナーや知識、技術の習得度を客観的に評価するOSCEの本格的な導入に向けてトライアルを実施した。対象の3年次生は自己課題の気付きや学習意欲の向上につながったとともに、教員においては科目間のさらなる連携や内容の確認の必要性など、大きな成果と今後の課題を得ることが出来た。学生が社会で自信を持って活躍し、卒業後も本大学本学科に誇りを持てるよう、より一層きめ細やかな対応を行っていききたい。

「おしゃべり」を活かす授業デザイン

医療保健学部医療情報学科 駒崎 俊剛 講師



教室を歩き回りながら学生のおしゃべりを注意深く聴いてみました。話している内容には、2つの種類があることが分かりました。それは、授業に関係のないことと授業に関係のあることです。そこで私は、後者を活かす授業を考えることにしました。もっと質問や議論、つまり「おしゃべり」ができる授業です。

学生が積極的に質問や議論をするためには、授業内容をあらかじめ理解している必要があります。そこで、ケラーのARCSモデルをもとにして、授業の種類に合わせた事前準備と質問・議論の時間を確保しました。

授業名	事前準備	授業中
医学・医療概論	教科書	授業中に数人で議論して講師に質問
キャリア教育Ⅱ	質問項目をウェブで回答	グループで議論、代表がクラスで発表
医療産業研究	レポートの提出と学生間で共有	レポートをもとに発表

このような授業進行を効率的・効果的・魅力的に行うために2つの情報システムを利用しました。本学で導入されているグループウェア（Desknet's）と学習管理システム（Moodle）です。

今後の課題は、3つあります。まず、シラバスに各回の講義での到達目標や理解してほしい概念や用語を載せること。次に、成果の確認方法を確立すること。特に質問や議論を点数化する方法。最後に、複数の情報システムを統合することです。

医療保健学研究科助産学コースの取り組み

大学院医療保健学研究科助産学領域 米山 万里枝 教授



大学院医療保健学研究科助産学コースは、助産師として臨床経験5年以上を対象として、「生涯学習：自ら学ぶ」とEvidenceに基づく助産実践に必要な専門知識と技術の再確認と新たな修得」を目的としている。助産学は、リプロダクティブヘルス・ライツやウイメンズヘルスに関する歴史背景、国際的動向、基盤となる理論・概念、女性の生涯を通じた健康課題を学び、その家族に対する健康支援の充実に向けたエビデンスに基づく助産ケア（EBM）とナラティブに基づく助産ケア（NBM）の方策について探求する学問である。そこで、自らの助産実践を再考察し、教育・指導力を得るために教員による授業や臨床指導、コーチング技能など教育理論を学修する。また、論文作成を通して研究に必要な能力を修得する。そして、助産師としての自律を考え、真のチーム医療と医師及び他職種との連携や実践力向上を目指している。そこで、臨床助産師としての経験や問題意識の高さを捉えた新規性のある授業の取り組みを検討している。助産学においてもEvidence-based Practice Midwifery（EBPM）を科学的に検証し、臨床の知として抽出されたもの、自分が学んだ理論がどのように臨床行動に適用されるか等の研究的思考が求められる。臨床経験のある大学院生は身近な臨床上の問い（Clinical Question：CQ）は既に持っている。このCQを選定し、それを明確にするための文献検討等の研究プロセスを展開する。研究の導入として、身近な臨床から研究的興味を引き出し、研究への問題意識やresearch questions（RQ）を見直すことに繋がり易いと考え。最後に、新たな学修として遺伝医療の発展を受けた助産師の遺伝医療への知識・理解や参画の在り方、正しい放射線と健康の知識と助産師役割、院内助産を踏まえた今後の助産師の自律の探求など、今後の助産師の業務拡大を視野に入れた新規性のある授業における取り組みを行い、その成果・課題等が明確化できるように発展させていきたいと考える。

平成24年度決算について（経理財務部）

学校法人青葉学園の平成24年度決算は、平成25年 5 月29日(水)の理事会・評議員会で審議・承認されました。決算概要を次のとおりお知らせいたします。

(単位：百万円)

	法人		東京医療保健大学		青葉学園幼稚園		野沢こども園		合計	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
帰属収入	27.9	28.0	3,000.8	3,005.9	209.1	214.0	207.2	223.8	3,445.0	3,471.7
消費支出	65.7	64.1	2,952.0	2,951.2	163.1	161.2	185.8	194.0	3,366.6	3,370.5
帰属収支差額	▲ 37.8	▲ 36.1	48.8	54.7	46.0	52.8	21.4	29.8	78.4	101.2
減価償却①	0.0	0.2	254.1	253.6	8.1	8.0	4.0	4.9	266.2	266.7
退職金引当金繰入②	0.0	0.0	0.0	47.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.4
資産処分差額③	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
除く①②③収支差額	▲ 37.8	▲ 35.9	302.9	364.0	54.1	60.8	25.4	34.7	344.6	423.6

平成24年度決算総括

- 平成24年度は、東京医療保健大学においては、東が丘看護学部を設置して3年目の年度となりました。
- 予算対比でみますと、予算では帰属収支差額は、78.4百万円でしたが、学納金、検定料、寄附金、事業収入、雑収入などの帰属収入が予算対比21.3百万円増加した一方、教育研究経費、管理経費などの消費支出が予算対比1.4百万円減少したことにより、帰属収支差額は101.2百万円となり、予算対比22.8百万円増加いたしました。

学部・研究科等一覧

大学

平成26年 4 月 1 日現在

学部	学科	入学定員	収容定員	キャンパス
医療保健学部	看護学科	100	400	五反田
	医療栄養学科	100	400	世田谷
	医療情報学科	80	320	
東が丘・立川看護学部	看護学科	200	800	国立病院機構、立川
計		480	1920	—
助産学専攻科		15	15	五反田

大学院【修士課程】

研究科	専攻、領域	入学定員	収容定員	キャンパス
医療保健学研究科	医療保健学専攻 看護マネジメント学 感染制御学 医療栄養学 医療保健情報学 助産学 周手術医療安全学 滅菌供給管理学	25	50	五反田
看護学研究科	看護学専攻 高度実践看護コース 高度実践助産コース 看護科学コース	30	60	国立病院機構
計		55	110	—

大学院【博士課程】

研究科	専攻、領域	入学定員	収容定員	キャンパス
医療保健学研究科	医療保健学専攻 感染制御学 周手術医療安全学	4	12	五反田
看護学研究科	看護学専攻	2	6	国立病院機構
計		6	18	—

注) 青字は平成26年 4 月 1 日からの変更点

日本私立大学連盟主催 F D推進ワークショップ (新任専任教員向け)に参加して

平成25年8月9日(金)・10日(土)、浜松において日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップが行われました。

この研修は、担当正課科目の個別的問題の解決と大学教員としての職能開発として、着任4年未満の新任教員を対象に行われました。私は、本学に着任し3年目になりますが、前任の専門学校講師や非常勤講師として講義を担った期間を含めると14年目になります。気づかぬ間に講義スタイルが固執しているのではと気になっていました。本研修は他大学・他分野の教員が参加されており、新たな視点で自分の講義を見直すことができるのではないかと思います、参加させていただきました。

本研修の要は、参加者50名ほどを6名ずつのグループに分け、各参加者で15分間の模擬授業を計画し実施するプログラムでした。私が属したグループは、文学系・語学系・経済学系・農学系の教員で構成されており、しかも、非常勤講師の期間や大学教員以外の前職の在任期間が長く、専門知識が非常に豊富なグループでした。

模擬授業で使用できる教材は板書(ホワイトボード)のみでした。最近の講義はスライドで展開するスタイルが定着しています。板書は内容を簡略かつ的確にする必要があり、ごまかしのきかない伝達

技術だと実感しました。板書で「教える」という技術の原点に立ち返り自分の授業技術を見直す貴重な経験になりました。とはいえ、スライドを活用した視覚的な講義展開は長所も多く、今さら板書のみにするのは現実的ではありません。研修に参加された多くの先生方が、スライドを活用した講義を効果的にするため、また、学生が主体的に授業に参加できるように、講義スライドのハンドアウトを配布するのではなく、別に授業用のレジュメを作成して配布しているようです。講義準備に多くの時間と労力を割いているようです。

近年では、大学教員は学生に少しでも解り易い講義を提供しようと努力しており、それは社会から望まれていることのようにです。特に本学は、資格取得も大きな目標なのでその傾向は強いと思います。しかし、講義アンケートで「解り易かった」の評価が高ければそれで良いのかと考えさせられました。解り易さの追求だけでなく、講義内容に自分の研究内容やその成果を盛り込むことで学生の興味や知的好奇心を高めること、そして、最近の学生が低下していると言われている「自ら考える力」を育てる教育を追求するべきと感じました。

医療保健学部看護学科 助教 たかの かいや 高野 海哉

平成25年度夏期FD研修会報告

医療保健学部看護学科では開学以来、継続的にFD(faculty-development)活動を実施している。今回は8月30日に学科全教員参加のもと五反田キャンパス内で実施されたFD研修会の様子を紹介したい。

まず、トップバッターとして、3名の若手教員より8月に開催された私大連盟のFD推進ワークショップ(浜松市)の報告が行われた。学生の主体性を導く授業方法に関する研修であり、実際に模擬授業を行い互いに評価をしあう演習であったことが報告され、具体的な授業資料の作り方が紹介された。

次に、FD委員会からの企画として、昨年度に実施した調査「教員としての役割に応じて必要と思う能力」の結果をもとに、役割別(ベテラン・中堅・若手)グループで自分たちに期待されている役割発揮の分析と、実習指導、研究活動、情報提供等、必要な能力獲得への取り組み課題をディスカッションし提案した。

ついで、7月に開催された日本看護学教育学会(仙台市)において、専門科目「看護の統合と実践Ⅰ」に関する交流集会を実施した報告が行われ、発表に向けて授業成果を研究的に整理した結果と会場からの質問、意見が紹介された。看護を学ぶ学生が卒業時点での達成目標を明確にして自ら学習計画を立案していくことをねらったこの授業について、学生自身は価値あるものと評価していること、しかし、授業を精選していく視点からは単位認定に相応しいのかどうか課題として抽出されたことが報告された。

続いて、学内授業に関する意見交換として、医学・医療概論および地域看護学について、担当教員より説明と課題提示がされた。1年生の科目である医学・医療概論は、今年度より形式と内容を刷新し、学生が看護師、医師、地域住民、行政担当者の立場にたったロー

ルプレイを行い、多角的に社会現象をとらえる方法を学んだことが報告された。地域看護学については、保健師関連科目の授業内容を検討していくにあたり、「地域で看護する・地域を看護する」をテーマに、他の科目が地域での看護をどう教授しているかについて情報交換を行った。

プログラムの最後には、カリキュラム改革検討の進捗状況が報告され、広い視野で社会全体をとらえ、また根拠に基づいた思考能力と技術を用いて、保健医療サービスの受け手のニーズに応じた看護を実践する能力の獲得をねらうこと、そのために実習を効果的に配置し、へこたれない看護師の育成をめざすことが確認された。

医療保健学部看護学科 教授 みやもと ちづこ 宮本千津子



熱心に意見交換が行われたFD研修会

平成25年度 医療栄養学科卒業研究発表会

医療栄養学科では、医愛祭にて卒業研究発表会を開催しています。今年の医愛祭は、11月2日(土)、3日(日)に開催され、ポスター形式で19題目の発表が行われました。この2日間で320名の来訪者があり、活発な討論が行われ、充実した発表会となりました。本学科の卒業研究は、選択科目で、意欲ある学生が、日頃熱心に研究に取り組んだ成果を発表しました。なかには、卒業研究が学会発表につながったものもあり、高度な研究内容となっています。

卒業研究発表題目一覧

- **五百蔵良研究室**
『酵母の違いがグルテン添加米粉パンのおいしさに与える影響』
『有用微生物の探索～植物性乳酸菌の分離と同定および発酵乳への応用～』
『有用微生物の探索～酵母の分離と同定及び食パンへの応用』
- **碓井之雄研究室**
『乳酸菌とメラトニンが口腔細菌に及ぼす影響』
- **大道公秀研究室**
『パツリンによるりんごジュース汚染の実態調査』
- **神田裕子研究室**
『大豆イソフラボン摂取と生活習慣の関係について』
『栄養と健康に関するライフステージ別保有情報に関する調査について』
- **北島幸枝研究室**
『高齢透析患者へ向けた簡単レシピ集の作成』
- **小城明子研究室**
『歯周病のリスク要因となる食習慣・生活習慣の抽出』
『嚥下調整食の硬さと嗜好の関係について～元の食材の硬さの影響～』
- **清水雅富研究室**
『過酸化脂質由来のアルデヒドによる遺伝毒性への影響』
- **下田妙子研究室**
『中高年女性の牛乳・ヨーグルト摂取と生活習慣病との関連』
『中高年女性の加齢変化と生活習慣病』
- **鈴木礼子研究室**
『未就学児の総エネルギー摂取量の現状評価：秤量法の調査』
『未就学児のビタミンA摂取量の秤量法による現状評価』
『未就学児における身体活動量の調査』
『食・健康情報の認知度についての調査～大学生による食育ボランティア活動』
- **森本修三研究室**
『大規模急性期病院に適した簡単嚥下食の提案』
『低たんぱく質食（LPD）の栄養学的評価～献立分析から～』
(指導教員五十音順)

学会発表された卒業研究の紹介

- **第9回日本給食経営管理学会学術総会**
平成25年11月9日(土)～10日(日) 千葉市：県立保健医療大学
『世田谷区内集団給食施設の施設特性と食品衛生に関する意識』
村田裕介、乳井雅美（大道研究室）
- **第60回日本栄養改善学会**
平成25年9月12日(木)～14日(土) 神戸市：神戸国際会議場
『中高年女性の牛乳および乳酸菌飲料摂取と健康との関連』
原田ひろみ、宮野祐里香（下田研究室）
『食・健康情報の認知度についての調査～大学生による食育ボランティア活動』
宇野穂恵、岡村奈美、大塚沙莉、貴志彩野、梅山あゆみ
『未就学児の総エネルギー摂取量の現状評価～秤量法による調査』
高橋佳那、齊藤俊春、松村尚美、菅沼美穂、酒井陽輝、長澤沙弥香、池戸葵
『未就学児のビタミンA摂取量の現状評価～秤量法による調査』
松村尚美、齊藤俊春、菅沼美穂、高橋佳那、酒井陽輝、長澤沙弥香、池戸葵
『未就学児における身体活動量の調査～24時間行動記録法』
酒井陽輝、池戸葵、齊藤俊春、菅沼美穂、高橋佳那、松村尚美、長澤沙弥香（鈴木研究室）

(学生名と研究室名のみを記載)

学生献立 | 東京都福祉保健局HPに紹介

東京都食生活改善普及運動「たっぷり野菜を食べよう！～生活習慣病予防～」500kcal台野菜たっぷりバランスランチメニューの企画に本学3年次生の作成した献立が、東京都福祉保健局のHPに紹介されました。この献立は、都庁職員食堂及び都議会議事堂レストランでランチ提供（9月17日から19日）、都庁1階アーターク台座でのメニューの写真展示（9月14日から20日）でも紹介されました。

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kenkou/kenko_zukuri/ei_syo/syoku.files/25toukyoiryouhokendaigaku.pdf



卒業生の声



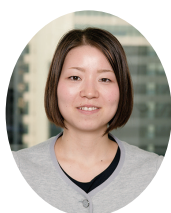
私が携わる仕事は、番号制度関連プロジェクトです。番号制度とは、国民1人毎に番号を配布することで各機関の既存番号とを紐付け情報連携を行うための仕組みについて定めたものです。その仕組み（情報提供ネットワークシステム）を受注するための提案活動を行っています。提案活動において、私は要件定義、実現方式の

検討などを実施しています。

学生の皆様へお伝えしたいことは、自身の過去・現在・未来の目

的がつながっているかを常に振り返ることです。なぜ今それをやるの？ なぜやりたいの？ 何のためにやってきたの？ と、私も自問自答しながら過ごしています。これらがつながっていると、目指すべき方向が明快になりやすく、また過去取組んで来た事柄が目指す方向の根拠として示しやすいと思います。大学生活とは今後のペクトルを決める時期だと思います。この人生の方向性を決める大事な時期を大切に過ごしてください。

株式会社NTTデータ いしはら りつこ 石原友里恵（2期生）



私は現在、カプセル内視鏡の業務支援システムの開発を行っています。カメラを内蔵した錠剤大のカプセルを飲み込むことで、低侵襲な検査を行うことができるシステムです。国内だけでなく、欧州、北米と、複数の仕向け地の開発を並行して行っており、各国でどのようなニーズがあるのか、どのように使われるのか、常に

意識して仕事に取り組んでいます。

ユーザーのニーズを考慮した開発を行うということは、在学中にゼミで医療現場に行き、多くの問題があることを身を持って実感し

た経験がベースにあります。いくら優れたシステムを作っても、それがユーザーにとって使いにくいものであれば、ミスも起きやすく、到底受け入れられないということを学びました。

皆さんには、失敗を恐れず是非色んなことにチャレンジしてもらいたいと思います。学生の時はなんでもやったもん勝ちです。自分なりに考えて、まずやってみるということが将来の皆さんの自信につながると思います。

オリンパスソフトウェアテクノロジー株式会社 いり かな 入江 香那（2期生）



私は、2010年に医療情報学科を卒業し、現在はお茶の水女子大学大学院の博士後期課程で高齢者の転倒予防に関する研究に取り組んでおり、博士号の取得に向けて研究と勉強に励んでいます。

私が医療情報学科で学生生活を送っていた時は、医療情報の知識を習得するとともに、医療情報ゼミの山下研究室の活動の中で様々なことを学び、多くのことを経験しました。中でも、研究室内の病院研修において、手術室や入院棟などを見学し、医療従事者やコメディカルの仕事を自分の目で見たことや、実際に当直を体験したことなどを通して、現場にはどのような支援が必要なのか、医療情報の立場としてどのような

データを示せば有用なのかを学ぶことができました。その時の貴重な経験は今でも私が研究を進める意欲に深く結びついています。

これらの経験から、現場を支援する研究を追及することに意義を感じ、大学院への進学を決意しました。現在は保健・福祉の分野に関連する高齢者の研究に携わっていますが、学生時代に医療情報の知識を身に付けたことで、幅広い見地からものごとを考えるスキルを得られたと実感しています。今、医療情報学科で勉強をしている後輩のみなさんには、医療情報の分野を極めることはもちろん、自分を高められる新たなことにチャレンジする気持ちを持って、大学生時代にこそできる多くの経験をしていただきたいと思います。

お茶の水女子大学大学院 なかじま かな 中嶋香奈子（2期生）



私は医療機関で使用される薬の有害事象を国に報告するシステムを開発しています。仕事内容の一つは、有害事象の報告システムが使いやすく標準化されるように、クライアントの製薬会社の仕様にカスタマイズすることも行います。開発言語はSQLでデータベースを扱っており、学生時代に学んだ、データベースやプログラムの技術が活かされています。もちろん、大学で学んだ知識だけ

では仕事には不足していますが、周りの方にフォローして頂きながら楽しく仕事ができおり、充実した生活を送っています。また、大学で学んだ幅広い知識は現在の仕事に活かされており、皆さんも幅広い知識が得ると将来につながると思います。

社会人になると自由な時間が限られてしまうので、勉強もプライベートも充実した学生生活を送ってください！

日立INSソフトウェア株式会社 はやかわ みほ 早川 美帆（5期生）

tomorrow's Nurseの育成をめざして

ーナレッジ統合実習・マネジメント実習の取り組みー

東が丘看護学部は、看護実践能力を中心に自己啓発能力、キャリア開発の能力を養い、将来の日本の医療保健福祉を支える実践力をもった看護師= tomorrow's Nurseの育成を目的にしています。この目的を達成するため、4年次に設定した実習科目が、ナレッジ統合実習・マネジメント実習です。ナレッジ統合実習（Knowledge integration practice）は、4年次の7月までに学習したすべての看護学領域（基礎、成人・老年、小児、母性、精神、地域看護学）の知識・技術・倫理的態度を統合した看護実践を目指した実習です。マネジメント実習（Nursing management practice）では、医療チームにおける看護マネジメントの実践を学びます。この2つの実習は、基礎看護学実習、各領域別看護学実習につづく最後の実習となります。自分の看護実践を振り返り課題を明らかにし、1人の看護職者として病院などの組織でどのように看護を提供していくのかを学びます。そのためこれまでの実習とは異なり、看護師の同行実習、複数の受け持ち患者の援助、夜間実習、看護チームにおけるリーダーやメンバーの役割、看護管理の実践について2週間の臨地実習を通して体験します。

1期生である4年次生は、2013年4月から8月にこの実習を実施しました。全領域の教員が担当し、指導に当たりました。4月から7月にかけては教員とのディスカッション、学生間での意見交換、レポート作成を通して、これまでの実習体験の振り返り、看護観の追及、課題の明確化に取り組みました。看護技術に関しても再度、演習を行い、到達度を確認しました。臨地実習は国立病院機構の東京医療センター、東京病院、神奈川病院および国立精神・神経

医療研究センター病院の4施設で行いました。臨床指導者の皆さんにとっても21:00までの夜間実習をはじめ、初めて受け入れる実習内容でしたが、後輩の看護実践者を育成するのだという意気込みをもって、一人ひとりの学生に丁寧に指導をしていただきました。

学生達は、これまでの実習とは異なり、自ら立案した課題をもって実習に臨み、チームで看護を提供すること、質の高い看護を提供するための看護マネジメントのあり方を学び、よりリアルに看護実践者としての自己像を描くことができました。2週間の臨地実習での学生の成長は目覚ましく、臨床指導者の皆さんからも高い評価をいただきました。4年次生98名が tomorrow's Nurseとして羽ばたくための自信をもつことができた実習であったと確信しています。

東が丘看護学部看護学科 教授 みやざき るみこ 宮崎 文子



看護技術を再確認するための演習

情報交換の場であるコンタクトグループミーティング

コンタクトグループは、豊かな学生生活が送れるよう、学生と教員間および年次の異なる学生間の相互交流、情報交換を目的に設置され、各学年の学生と教員から成るグループです。4月、11月に定期のコンタクトグループミーティングが開かれます。この活動に参加し感じたこと、役に立っていることを以下に述べます。

- ①先輩に勉強方法や就職活動、ゼミのことなど不安なことについてアドバイスを受けることができます。コンタクトグループミーティングで、先輩に現在や今後のことで感じている不安について尋ね、アドバイスを受けることによって、現在や今後の方向性が見えてきて不安が軽減されました。具体例として、国家試験と実習の勉強の両立に焦りと不安を感じていた時、コンタクトグループミーティングで先輩方から「実習中は事前課題をきちんとやっておくと実習が行いやすく、国家試験の対策にもなる」という話を聞き、安心したことが挙げられます。去年実習を経験した先輩方から実習中の具体的な勉強方法について聞くことによって、勉強方法が分かり、実際に自分が実習前の事前課題を行い、実習や国家試験に役立たせることができました。
- ②授業の内容やテストのことなど経験者である先輩に気軽に聞くことができます。先生に直接聞きにくいことなどもコンタクトグループミーティングで先輩に聞きやすい環境が整えられています。自由な雰囲気の中で情報交換ができます。具体例として、選択授業でどの授業をとるべきか悩んでいる際、先輩方に授業内容や雰囲気、テストや評価の仕方など気軽に聞け、

熱心に情報提供をしていただいて、授業がイメージでき、どの授業をとろうか、考えることができたことが挙げられます。

- ③先輩や同学年、後輩の近況報告を聞くことによって、自分の日常生活の参考になることです。グループメンバーの趣味やバイト、最近の出来事など、自分と異なることについて話を聞くことによって、様々なことに興味、関心を持ち、自分の生活の中にも取り入れようと考えたり、参考にしたりすることができました。

以上のように、コンタクトグループを通して、普段あまり話す機会の少ない先輩や後輩から様々な情報を得ることができ、自分の生活の参考になったり、実習や勉強方法などの不安が軽減したり、新しい発見があり、私の学生生活の中で大変貴重な場、時間になっています。

東が丘看護学部看護学科 3年次生 やまもと めぐみ 山本 恵美



お茶を飲みながらの楽しい情報交換

大学院生は『非リア』か？『リア充』か？

～社会人大学院生の時間管理術～

リア充（リアじゅう）とは・・・

リアル（現実）の生活が充実している人物を指す。インターネット上のコミュニティに入り浸る者が、現実生活が充実していないことを自虐的に表現するための対語的造語。非リアはその逆。

本大学院医療保健学研究科は勤務をしながら学ぶ「社会人大学院生」がほとんどである。

大学院生の生活というと、「講義や課題に追われ、研究のことが頭から離れず、旅行やファッションにかまっていられる余裕など無く、ちょっと浮世離れしてしまう。まさに『非リア』の象徴！」、入学前はそんな印象があった。しかし入学してみるとあながちそうでもない。

夏休みには山にも行ったし海にも行った。普段飲みにも行っている。いや、院生の同期と飲む回数が増えた分、確実に入学前より酒量は増えている。（それはさておき・・・。）

にもかかわらず、講義・課題・研究・仕事・家庭・遊び。どれをおろそかにしているわけでもない。（と思う・・・。）いやむしろ、前より仕事や遊びは充実している感がある。

なぜ、これが実現できているのだろうか？

一言で言えば「時間管理」である。限られた時間を有効に活用するのである。

たとえば、仕事の段取りを綿密に行い、なるべく残業しないようにして夕方からゼミを組んでもらう。こうすると講義がない土曜日をゼミに当てなくてよくなり、できた休日を午前中に海に行って家庭サービスし、午後は講義の課題に充て、夜はホームパーティーを試みたりできるのである。

まさに時間管理の勝利である！

日常生活におけるPDCAである！

『非リア』どころか『リア充』である！

そういえば入学式後の懇親会で、ある先生が「大学院生は時間管理が大事！」とおっしゃっていたことを思い出した。なるほどその通りだ。

しかしわかったことがもう一つある。

「リア充は疲れる・・・。」

休息の管理も忘れずに！

医療保健学研究科 修士課程1年 医療保健情報学 みたに よしあき 三谷 嘉章



大学院の仲間と（後列右端が筆者）

博士課程での学び

「その研究の新規性は？」

これが、博士課程に進学して、最初に突き付けられた問いでした。

それに答えるには論文を読み、先行研究の状況をおさえ、自分の研究の位置づけを把握していなければなりません。図書館にある感染関連の雑誌やデータベースも利用して地道な情報収集をし続ける努力も、多彩な講師陣から教わりました。

博士課程では月に1度のカンファレンスDrCCがあり、それぞれの研究内容や進捗状況を報告します。ほかの報告者の着眼点に感心し、研究の進め方に舌を巻き、データの解釈を聞きながら、自分の研究にも助言やアイデアを取り入れていきます。働きながら学ぶ環境にあると、つい目の前の仕事に追われがちで研究の方はおろそかになり、次回はすぐ来ます。それを乗り越えるには、覚悟が必要だと感じます。

入学してから、医療機器メーカーの工場見学など、幅広く感染制御について学ぶ機会をいただきました。また、国際学会に参加し、海外の研究者との貴重なカンファレンスの機会もいただきました。同じ大学院の院生や修了生のみならず、大学院が開催している感染制御実践看護学講座や感染制御学企業人支援実践講座の受講生も含めて、さまざまな方々との交流もできました。今、確実に自分の世界が広がっていることを実感しています。博士論文を執筆するにあたりこれからが正念場ですが、研究成果が少しでも感染制御に貢献

するように、真摯に取り組んでいきたいと思っています。

医療保健学研究科 博士課程2年 感染制御学 すずき あきこ 鈴木 明子



Infection Prevention 2013（ロンドン）に参加

臨床との連携、臨床教授会

東京医療保健大学大学院修士課程高度実践看護コースでは、救急患者、周手術期患者、ハイリスク患者といったクリティカルな状態にある患者に対し、医師との連携・協働のもとに患者の状況を総合的に判断し必要な検査や特定行為が実践でき、チーム医療において自律的に活躍できる高度な看護職（診療看護師）を育成しています。

診療看護師に必要とされる医学知識と技術を修得するために、大学院の2年次には17週間に及ぶ臨床実習（統合実習17単位）がカリキュラムに組み込まれています。

臨床実習については、独立行政法人国立病院機構の東京医療センター、災害医療センター、東京病院が実習施設の連携・協力を得て実施しています。実習施設の3施設には臨床教授78名がおります。診療看護師は診察・包括的健康アセスメント力が求められ、医師の直接的指導により、状況を総合的に診察・診断できる能力を身に付ける教授方法が必要となります。そのために、指導医師の責任者を臨床教授として任命させていただき、学生の臨地実習に教育的に関わって頂いているところです。

臨床教授は、臨床実習だけではなく、学内での講義や演習も担当していただいています。特に、臨床推論できる能力などを修得するための3P（Pharmacology薬理学、Pathophysiology病理学、Physical assessmentフィジカルアセスメント）の教育に重点を置いており、超音波診断装置を用いたFAST（Focused Assessment with Sonography for Trauma）診断も、臨床教授に大学で直接指導を受けながら演習を行っています。その他、皮膚縫合や壊死組織のデブリドマンといった「特定行為」に関する技術修得のための科目を臨床教授が担当しています。このように、臨床教授が、講義・演習・実習の学習プロセスに関与して頂くことで、より実践的な教育を受けることが可能となっています。

効果的な臨床実習になるためには、大学と臨床との連携、コミュ

ニケーションが不可欠になります。そのために大学教員と臨床教授が教授内容や教授方法について確認しあい、実習前後で意見交換をすることは教育効果を上げていく上で非常に重要なことと言えます。

大学と臨床との連携の一つとして、臨床教授会を年間2回（5月と12月）、臨地実習前後に開設時から実施しています。今年度は、12月9日（月）に災害医療センター、12月11日（水）に東京病院、12月13日（金）に東京医療センターで2回目の臨床教授会を開催しました。今回の教授会では、草間看護学研究科長より、厚生労働省で審議されていた「特定行為に係る研修制度」に関する動向について話題提供いただきましたが、臨床教授の関心も高く、今後の効果的な実習の在り方について意見交換が行われました。また、実習成績や特定行為の経験状況や到達度、実習上の課題等について臨床教授と忌憚のない意見交換ができました。これらの意見をもとに、次年度の実習内容や実習方法、指導体制の見直しを行う予定です。

このように、大学と臨床が、教育目標を共有し、学習者である学生が自律的に学習できる実習環境を提供していくためにも臨床教授会は非常に有用であると思っています。

東が丘看護学部看護学科 准教授 やまだ たくみ 山田 巧



東京医療センターにおける臨床教授会



台湾における産後ケア施設を訪ねて

現在、課題研究として「助産所に特化した産前・産後ケア事業の在り方の検討」をテーマに取り組んでいます。このたび、宮崎指導教授の勧めで先進国アジアの産後ケア施設のモデルである台湾の産後ケア施設を視察する機会を得ました。参加者は教授および大学院1年次生を含む9名です。今回の視察概要について紹介させていただきます。

台湾には歴史的習俗として産後1か月間は「坐月子」と呼ばれる風習があり、産後の母体回復のため十分な休養と栄養をとり、体を冷やさないなどの生活習慣がありました。しかし、台湾の2012年の第一子出産年齢の平均は30.1歳、合計特殊出生率は2010年で0.9と最低値を記録しており、日本同様少子高齢化が進んでいます。そこで、台湾では核家族化、両親の高齢化に伴う家族の育児支援力の低下、親世代との育児観の違いなどから、「坐月子」をすすめるために、産後ケア施設が約10年前から登場し、人気を集めています。今回、妊娠期から産褥期まで一貫した産後支援型施設（A）と産褥期支援型施設（B）の2施設を視察しました。

Aは、高雄市に位置し、月200件の分娩件数を誇る病院附属産後ケア施設です。看護師による3交代制でケアが提供されます。利用料金は1泊2日6食付、約1万円で産後4日目からの利用可能であり、主に付属病院で分娩した人が利用しています。24床の個室はほぼ満床、多くの母子は約1か月ここで過ごします。母子が参加するゲーム、ヨガ、マッサージ、育児技術の習得など数々のプログラム、東洋医学と栄養士の管理のもと提供される食事など、利用者の満足度の高い施設でした。

Bは、台湾中部にあり、美容外科病院が運営する施設です。利用料金は1泊2日6食付、約2.4～5.6万円と6段階で、ベッドは18床。

施設内は豪華な設備と調度品で整えられています。在院日数はA同様約1か月で、ベッド稼働率は約70～80%でした。日々のケアを行う看護師のほかに、母子には秘書がついており、リラックスできる空間を提供することが徹底されていました。

2施設の共通点は①母乳育児100%を目指すこと②在院日数が長いこと③入院費は自費であること④管理者は看護師であることが義務付けられていること⑤黒字運営の5点です。

今回の訪問で、日本と台湾の育児に関する社会・生活環境は類似しており、家族だけでは、母子ともに必要な養生をとることができない現状を知ることができました。日本では、この2013年10月より横浜市で乳幼児虐待予防、少子化対策の一環として、豊富な経験をもつ助産所を対象に母子ケアのモデル事業が開始しました。今回の学びを日本の産前・産後ケアの在り方の参考にしていきたいと思っています。

看護学研究科 修士課程高度実践助産コース2年 にしまた あきこ 西俣安希子



台湾産後ケア施設「産後護理之家」で管理者とともに



就職内定状況一覧 (26.2.1現在)

【医療保健学部 看護学科】 就職率：100%

就職先		人数	4年次生の就職内定者数と内定先
看護師	国立系病院	6	国際医療研究センター病院 (2)、成育医療研究センター (2)、国立がん研究センター東病院、東京医療センター
	公立病院	8	川崎市立川崎病院/井田病院 (2)、横浜市立脳血管医療センター、都立大塚病院、都立墨東病院、川崎市立多摩病院、稲城市立病院、三沢市立三沢病院
	国公立大学病院	14	千葉大学医学部附属病院 (2)、筑波大学附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院 (3)、東京大学医学部附属病院 (2)、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター病院 (4)
	私立大学病院	30	杏林大学医学部付属病院 (2)、自治医科大学附属さいたま医療センター、昭和大学病院 (5)、順天堂大学医学部附属順天堂医院 (2)、東京女子医科大学病院 (2)、東邦大学医療センター大森病院 (12)、東京慈恵会医科大学附属病院、東邦大学医療センター大橋病院、北里大学北里研究所病院、北里大学病院、聖マリアンナ医科大学病院、日本医科大学武蔵小杉病院
	公的病院	8	日本赤十字社大森赤十字病院 (4)、日本赤十字社武蔵野赤十字病院、横浜南共済病院、日本赤十字社医療センター、東京厚生年金病院
	私立病院	39	NTT東日本関東病院 (14)、鎌ヶ谷総合病院、がん研有明病院 (2)、行田総合病院、千葉中央メディカルセンター (2)、東京通信病院 (8)、東京都保健医療公社東部地域病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、東京臨海病院、三井記念病院 (2)、関越病院、東京都共済会中央病院、厚生中央病院、井之頭病院、聖路加国際病院、河北総合病院
計		105	

【医療保健学部 医療栄養学科】 就職率：95.7%

就職先		延人数	4年次生の就職内定者数と内定先
病 院	管理栄養士事務職	7	成仁病院 (2)、習志野第一病院、戸田中央医科グループ、医療法人社団同友会、日本医科大学多摩永山病院、独協医科大学病院
社会福祉施設	管理栄養士	8	社会福祉法人湖山グループ (3)、社会福祉法人江東園、日本ライフデザイン (2)、子供の町、社会福祉法人蓬萊会ケアプラザたま
医薬品等販売	管理栄養士	27	クリエイトエス・ディー (3)、スマイルドラッグ、ドラッグストアバイゴー、ココカラファインヘルスケア (9)、カワチ薬品 (2)、マツモトキヨシ (2)、スギ薬局 (3)、サンドラッグ (3)、杏林堂薬局、望星薬局、住商ドラッグストアーズ
給食委託	管理栄養士	40	グリーンハウス (4)、シダックス (5)、エームサービス (3)、富士産業 (6)、日清医療食品東関東支店、西洋フード・コンパスグループ (3)、日清医療食品東京支店 (9)、ハーベスト、フジ産業、東洋食品、L E O C、菜園勇進 (2)、メディカルフードサービス、若菜、エームサービス東日本
流通・食品卸	管理栄養士	6	セブーン・イレブン・ジャパン、日本アクセス、いなげや、三菱食品、カスミ、野口食品
中・外食産業	営業・販売	5	セブン&アイ・フードシステムズ、ロック・フィールド、オリジン東秀、薬糧開発、カフェ・カンパニー
食品メーカー・販売	技術職・営業	14	関東食品、ケンコーマヨネーズ、グレープストーン、サンヨー食品、サラダクラブ、六花亭製菓、栗山米菓、武蔵野フーズ (2)、武蔵野 (2)、石井食品、ポッカサッポロフード&ビバレッジ、サンデリカ
医薬品メーカー・卸	医療情報担当者 営業・販売	3	東京サラヤ (2)、科研製薬
保育園・学校	管理栄養士等	24	ベネッセスタイルケア、ニチイ学館、タスクフォース (2)、学研ココファン・ナーサリー、J Pホールディングス (3)、雲母保育園、ポピンズ (2)、社会福祉法人どろんこ会 (2)、ポケットランド、社会福祉法人彩育会、WITH (ういず保育園)、社会福祉法人夢工房夢花保育園、高砂福祉会、子供の森保育園、県北若竹学園、社会福祉法人東京児童協会、社会福祉法人多摩福祉会、社会福祉法人扶養福祉会作草部保育園、日本保育サービス
公務員		1	高崎市 (管理栄養士)
その他		19	ABC Cooking Studio (5)、シェイプアップハウス (2)、富士データシステム、美高商事、北つくば農業協同組合、ポティーフワーク、PL健康管理センター、マルハン、東京医療保健大学 (2)、フィナンシャル・エージェンシー、セントラルスポーツ、東京社会保険協会、スリムビューティハウス
計		154	

【医療保健学部 医療情報学科】 就職率：87.7%

就職先		延人数	4年次生の就職内定者数と内定先
病 院	診療情報管理士事務職	16	東京慈恵会医科大学、財団法人ときわ会、大高医院、佐々木眼科、つくば病院、筑波記念病院、がん研有明病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、東京都済生会中央病院、青光会今井町診療所、PL東京健康管理センター、横浜南共済病院、医療法人社会同和会グループ (3)、元谷整形外科
医療系システム開発	システムエンジニア	33	キーウエアソリューションズ (3)、ランドコンピュータ (3)、インフォコム、日本システムウェア (2)、CACエクスケア、日本ソフトウェアマネジメント、亀田医療情報、ソフトウェアサービス (2)、S J I (3)、日本システム技術、ジャパンテックニカルソフトウェア、アセンティア、システムロード、医療システムズ、富士通エフサスシステムズ、プライアルメディカルシステム (4)、アーバンシステムズ、ACMOSソーシングサービス (5)
一般ITシステム開発	システムエンジニア	18	コメント、アドバンスドシステムテクノロジー、アローズシステムズ、エス・ケー・アイ、エスピーック、システムリサーチ、インフォテック、東京コンピュータサービス、CS I (2)、ゼネット、スターティア、シーイーシー、クレオマーケティング、スターティア、ウエアバンク、ヒューマンキャピタル、ビジュアルリサーチ
医薬品 (開発・臨床試験)	医療情報担当者 治験コーディネーター	1	イービーエス
福祉施設	介護	2	ロングライフホールディング、(有) ナースケア
その他	営業職・事務職等	6	ニチイ学館、望星薬局、アイケイ、ケイポートドラッグマート、サイゼリア、相模法務行政書士事務所
計		76	

【東が丘看護学部 看護学科】 就職率：100%

就職先		人数	4年次生の就職内定者数と内定先
看護師	国立系病院	66	国際医療研究センター (7)、国際医療研究センター国府台病院 (3)、精神・神経医療研究センター病院 (2)、成育医療研究センター、東京医療センター (39)、災害医療センター (3)、東京病院 (3)、村山医療センター (3)、埼玉病院、相模原病院、下志津病院、まつもと医療センター、青森病院
	公立病院	2	東京都立北療育医療センター、東京都小児総合医療センター
	国公立大学病院	3	筑波大学附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、横浜市立大学附属病院
	私立大学病院	11	順天堂大学医学部附属順天堂医院 (2)、順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター、日本医科大学附属病院 (2)、杏林大学医学部付属病院、昭和大学横浜市北部病院、東京女子医科大学八千代医療センター (2)、獨協医科大学病院、慶應義塾大学病院
	公的病院	1	日本赤十字社武蔵野赤十字病院
	私立病院	6	日本郵政株式会社東京通信病院、一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院、聖路加国際病院、医療法人鉄蕉会亀田総合病院、沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院、医療法人社団碧水会長谷川病院
保健師	保健所	1	東京都千代田区
	市区町村	2	埼玉県吉川市、神奈川県厚木市
民間企業		1	ソフトウェアサービス
計		93	

トピックス Topics

「医愛祭」を実施しました。

平成25年11月2日(土)、3日(日)に第9回医愛祭を世田谷キャンパスにて実施しました。

初日は雨がばらつき天候がやや不安定でお客様の出足が危ぶまれましたが、2日目は回復し、昨年より多くの来場者がありました。来場者数は初日464名、2日目805名、合計1,269名となり昨年の1,047名を上回りました。

青葉学園幼稚園園児達が画いた「夏の日の思い出」や「大好きな人」の絵を本館1階に展示しましたが、11月2日(土)には園児達が先生方の誘導のもと見学に訪れました。

女子バスケットボール部「Wizards」 1部昇格！ チアダンス部「ジャスミン」 全国大会初出場！

女子バスケットボール部「Wizards」1部昇格及びチアダンス部「ジャスミン」の全国大会初出場を祝う祝賀会を実施いたしました。

2部リーグから1部リーグへ初の昇格を果たした女子バスケットボール部「Wizards」と関東大会で2位、初の全国大会に出場を果たしたチアダンス部「ジャスミン」。この両団体の活躍を祝し、平成26年1月9日(木)午後7時から五反田体育館において盛大に祝賀会を開催いたしました。学部学生124名、来賓・教職員29名、総計153名が参加しました。

田村理事長、木村学長、ご来賓として1960年ローマ五輪男子バスケットボール日本代表の鎌田正司様を迎え、学友会の学生が中心となった華やかな会となりました。

NTT東日本関東病院の トリアージ訓練に参加しました。

平成25年10月10日(木)に医療保健学部看護学科3年次生5名、4年次生27名の計32名が、模擬患者役でNTT東日本関東病院のトリアージ訓練に参加しました。例年より参加者は少なかったものの、全員が患者役を体験することができ学びの多い訓練となりました。

フードスペシャリスト 資格認定試験が実施されました。

平成25年12月15日(日)に行われた平成25年度フードスペシャリスト資格認定試験(日本フードスペシャリスト協会)の結果、医療保健学部医療栄養学科の学生106名が受験し、全員が合格しております。

医療情報基礎知識検定試験が 実施されました。

平成25年12月15日(日)に、世田谷キャンパスにおいて「医療情報基礎知識検定試験」が実施されました。医療保健学部医療情報学科1～3年次生を含む、約80名が受験し、試験の結果が1月15日(水)に発表となり、63名が合格しました。

音楽サークル「ダ・カーポ」が ウィンターコンサートを行いました。

音楽サークル「ダ・カーポ」による、ウィンターコンサートが、平成25年12月26日(木)16時から国立病院機構東京医療センターにおいて行われ、多くの入院患者及び外来患者さんに音楽を楽しんでいただきました。プログラム終了後も観客のアンコールの声に応える場面もありました。

公開講座を実施しました。

平成26年1月8日(水)18時から国立病院機構キャンパス本館HM201教室において、「米国におけるNPを医師の視点から考える」をテーマに、米国スタンフォード大学病院ICU医師の御手洗剛先生にご講演をいただきました。

御手洗先生は、同大学病院の救命救急・集中治療室において、医師としてNPの指導医としてもご活躍されておられ、同大学病院内におけるNPの活動状況、臨床チーム内におけるNPの役割など、医師の視点からみたNPの現状と期待される未来に関して、示唆に富む貴重なご意見を伺うことができました。

参加者は学内外から98名であり、アンケート調査の結果では、回答者の全員が「大変良かった」(80%)、「良かった」(20%)としており、好評でした。

編集 集 Editor's note 後記

東が丘看護学部は、国立病院機構東京医療センターとの連携を図り、平成22年4月、東京都目黒区東が丘の地でスタートしました。平成26年4月からは、東京都立川市にある国立病院機構災害医療センターと連携することとし、平成28年度からは同敷地内にキャンパスを設置いたします。ついては、学部名称をそれぞれの地名を冠した東が丘・立川看護学部に変更し、さらなる発展を目指してまいります。

3月8日(土)に本学としては6回目の学位記授与式を挙行しますが、東が丘看護学部看護学科においては初の卒業生、大学院看護学研究科修士課程高度実践助産コースにおいては初の修了生を社会に送り出します。今後、多様な医療現場等において優れた医療人として活躍されることを願っております。

本学は、開学10年目を迎える平成26年度には、大学全体の入学定員は556名、収容定員2,063名となります。本学は、平成17年度に1学部3学科(入学定員280名、収容定員1,120名)を有する医療系の小規模大学として開学しましたが、平成26年度には2学部4学科、1専攻科、2研究科(修士課程・博士課程)を有し収容定員が2,000名を超える中規模大学に充実発展が図られることとなります。